



◆生育状態については果樹総合情報参照

◆当面する重点作業と

1. せん定が遅れている場合は、この休眠期防除を優先実施し、散布後に剪定を仕上げるようにする。
日陰や作業に支障のある枝は思い切って切る。切り口は必ず塗布剤を塗布する。
2. 定植後の苗木には必ずかん水をする。
3. 雪害・鹿の食害で折れたところはキレイに切り取り塗布剤を塗布しておく。
4. 雪解け後の食料が少ない時期は効果が高いので④「ヤソヂオン」を使用し、ネズミの数を減らす。

M9の生育状況（長野県果樹試験場）

| | 発芽 | 展葉 | 満開 | 備考 |
|------|------|------|------|----------------|
| 平年 | 3/17 | 4/9 | 4/29 | 1991～2020年の平均値 |
| 令和2年 | 3/9 | 4/4 | 4/30 | |
| 令和3年 | 3/8 | 3/28 | 4/22 | |
| 令和4年 | 3/17 | 4/7 | 4/24 | |
| 令和5年 | | | | |

過去のふじの発芽時期（果樹試験場の平年は3月30日）

| | 令和4年 | 令和3年 | 令和2年 |
|-----------|-------|-------|-------|
| 瀬原田・真島のふじ | 3月28日 | 3月22日 | 3月21日 |
| 果樹試験場のふじ | 3月31日 | 3月23日 | 3月27日 |

| | 平成31年 | 平成30年 | 平成29年 | 平成28年 | 平成27年 |
|-----------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 瀬原田・真島のふじ | 3月26日 | 3月26日 | 4月6日 | 3月24日 | 3月25日 |
| 果樹試験場のふじ | 3月28日 | 3月28日 | 4月7日 | 3月28日 | 3月22日 |

| | 平成26年 | 平成25年 | 平成24年 | 平成23年 | 平成22年 |
|-----------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 瀬原田・真島のふじ | 3月29日 | 3月24日 | 4月4日 | 4月6日 | 3月26日 |
| 果樹試験場のふじ | 3月31日 | 3月24日 | 4月5日 | 4月7日 | 3月22日 |

◆第1回薬剤散布について

散布日 月 日

1. 散布時期 …… 3月18日(土)～3月25日(土)（発芽10日前）
2. 使用薬剤 …… 殺虫剤：スプレーオイル50倍
殺菌剤：石灰硫黄合剤10倍
3. 調合量 …… **水88ℓ 当り**

[
 スプレーオイル …………… 2ℓ
 石灰硫黄合剤 …………… 10ℓ

4. 散布量 …… 10a当り＝350ℓ 以上
5. 対象病害虫 …… 越冬病害虫・腐らん病・ハダニ類・カイガラムシ類
6. 留意事項

①温暖無風の日を選び、アスパラガス等他作物・他品目に薬液が掛からないように十分注意する。（特に収穫期の作物が近くにある場合は、散布前に隣接園へ声をかける。）

- ②残液は川に流さないようにする。
- ③樹全体を洗うよう丁寧に散布する。
- ④薬剤調合はたくさんのお水でスプレーオイルを先に溶かし、石灰硫黄合剤を加用し丁寧に攪拌しながら散布する。
- ⑤リンゴハダニの発生が多かった園は、散布時期が遅れないように注意しスプレーオイルを必ず散布する。
- ⑥スプレーオイルに代えてハーベストオイル50倍を使用してもよい。
- ⑦石灰硫黄合剤に代えてベンレート水和剤2,000倍（水100ℓ 当り50g）を使用してもよい。
ただしカイガラムシなどに対し効果が無いので注意する。
- ⑧**カイガラムシが多い場合**は、第1回目の薬剤散布を下記の薬剤に変更して丁寧に散布する。

| | | |
|---|-------------------------------------|----------|
| { | スプレーオイル・・・・・・・・・・50倍（水98ℓ 当り20） | カイガラムシ・他 |
| { | アプロードフロアブル・・・・1,000倍（水100ℓ 当り100ml） | カイガラムシ対策 |
| { | ベンレート水和剤・・・・2,000倍（水100ℓ 当り50g） | フラン病対策 |
- ※アプロードフロアブルを使用する場合は、石灰硫黄合剤と混用できない。
そこで石灰硫黄合剤の代わりにベンレート水和剤を使用する。
- ⑨保管中の石灰硫黄合剤が結晶化してしまった場合は、容器ごとぬるま湯に付けておけば溶けます。

◆台木・幹部の亀裂障害対策について

異常気象に伴い、若木では台木・幹部の樹皮の亀裂発生が心配されるので、園地を見回って対処を行ってください。

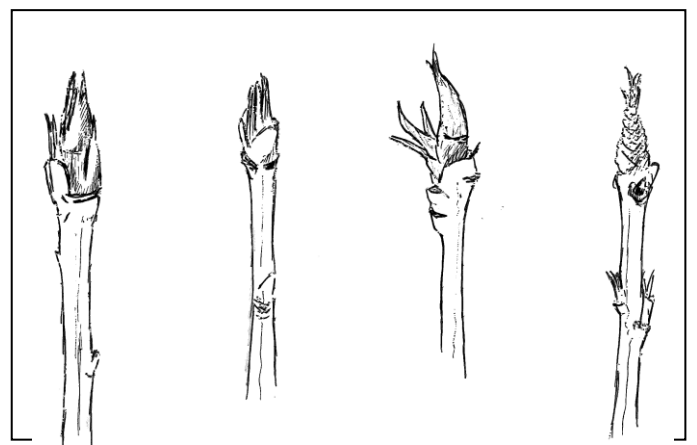
- 発生条件・・ 地温の上昇に伴い、園地内の水分の多い場所（雪解け水が多い・地下水位が高い）で発生しやすい。
- 発生次期・・ 根の活動が始まる3月下旬までに発生が多い。
- 対 策・・ 亀裂が発生しているところは乾燥防止のためにトップジンMペーストを塗布する。
亀裂が大きい場合は荒縄や緑化テープ（麻布）などで縛ってからトップジンMペーストを塗布する。塗布は直ちに行う。1ヵ月後では手遅れとなる。

◆うどんこ病の『被害枝』除去について

紅玉・つがる・シナノスイートでの発生が多いが、隣接するふじにも多く散見される。ふじのように本来抵抗性が強い品種でも散見されるので、花芽をよく確認する。もっとも重要な対策は、「被害枝」の除去となる。「被害枝」を発芽させてしまうと、伝染源となるため、以後の薬剤防除の効果が出にくくなる。

図の様な枝は、必ず発芽前に先刈りする。なお、感染部は目に見える部位だけではないため、被害部位より2～3芽程度多めに切る。

発芽させてしまった場合は、正常な枝より生育が遅れるため、そのような枝（芽）を発芽10日後頃に確認し、見つけ出して除去する。



◆粗皮削りについて

メンチュウ・カイガラムシ・ハダニの薬剤防除効果を上げるためと、フラン病の早期発見のために第1回農薬散布前までに粗皮削りを行い、薬剤の効果を向上させる。

◆黒星病の対応について

黒星病の被害にあっている落ち葉は、焼却処分・耕運する・集めて土の中に埋めるなどの対応を行う。被害葉が地上にあると春に発生源となる。

◆腐らん病対策について 増加傾向にあるので注意！！

- ①小枝の枯れ込み（果台感染）は、早期に除去し焼却する。
- ②胴腐らんは病斑部を紡錘形（上・下の部分を多く）に削り取る。
- ③病斑部の削り取った部位は、トップジンMペースト又はベフラン塗布剤を塗布する。
- ④胴腐らん対策には、泥まき方法もある。果樹技術員に相談ください。
- ⑤園地内の治療箇所などを重点的に点検（再発が多い）し、被害箇所は早期に処理する。

◆半わい化栽培講習会開催について

| 期 日 | 曜 | 時 間 | 開催場所 | 集合場所（10分前に） |
|-------|---|-------|-----------------------|-------------|
| 3月20日 | 月 | 午後2時 | 移動します | 信更流通センター |
| 3月23日 | 木 | 午前10時 | 宮澤雄彦様園（真島） | 真島フルーツセンター |
| | | 午後2時 | 小林和彦様園（綿内） | 綿内清水諏訪社前 |
| | | | 引き続き希望者園にて幼木の講習会を行います | |

◆紅玉 せん定講習会

| 期 日 | 曜 | 時 間 | 開催場所 | 集合場所（10分前に） |
|-------|---|-------|------------|-------------|
| 3月15日 | 水 | 午前10時 | 丸山芳樹様園（梵天） | 真島フルーツセンター |

※講師 長野農業農村支援センター 畔上普及員様

※真島地区以外で参加を希望される方は、果樹技術員まで連絡下さい。人数把握のためご協力願います。
また現場は狭いので車は乗り合わせとなります。

◆新しい化整枝せん定・栽培管理について

せん定講習会については次回情報にてお知らせします。

個別に対応も行うので、果樹技術員までお問い合わせください。

樹液が上がる前に切ると樹勢は強くなる・・・樹勢が弱い場合は3月にせん定を行う。

4月に切ると落ち着きやすい（枝が伸びにくい）・・・強樹勢の場合は4月に行う。

樹勢の判断 昨年伸びた主枝延長枝の長さで判断。

1年目30cm、2年目50～75cm、3年目以降30cmが適樹勢の目安。

切る枝 地上80cm以下から出た枝（地面につく枝）

直径2cm以上になった枝（小枝を出すため握りこぶし分残して切る）

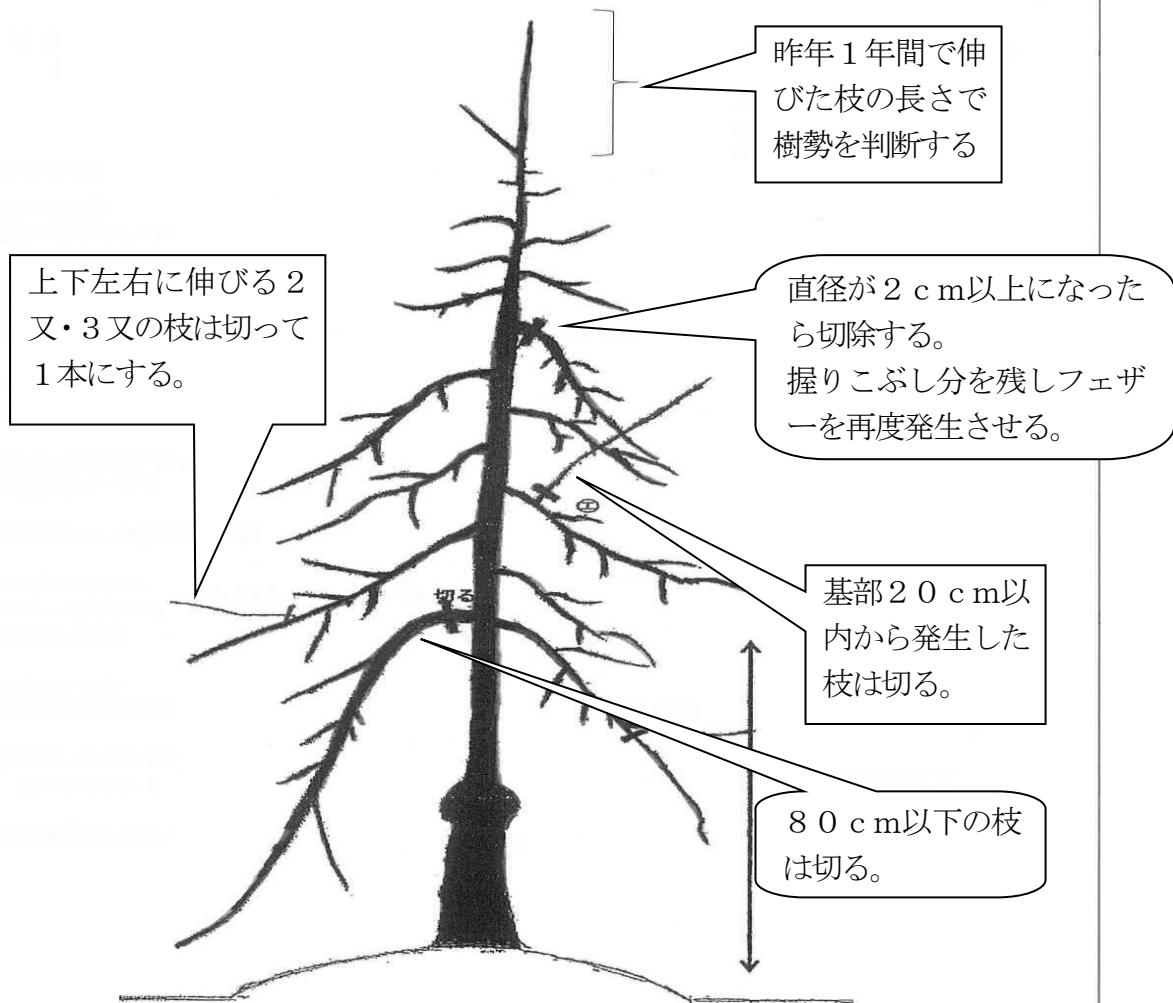
側枝（フェザー）の基部から出た枝や二又を整理してすっきりした枝にする。

◆凍害対策で巻いたワラについて

できるならば除去せず開花時までそのままにしておく。

前年の凍害でも遅くまで巻いていた園では被害が少ない傾向。

弱い樹（早生・中生種）は抵抗性が低く、強い樹（ふじなど）は水上がりになる場合があるので注意。
農薬散布はワラにもタツプリかかるように行う。



《栽培に関する問合せ》

根津(信更):080-1203-8576/外谷(篠ノ井):080-8048-6602/福田(若穂):282-2002

佐藤(川中島):090-7179-9866/丸山(更北・松代):080-1202-0260/寺澤(篠ノ井西部):080-1188-5229

松坂(全域・編集担当):080-1188-4131/営農部(本所):292-0930

《販売に関する問合せ》各流通センター・共選所/生産販売部(本所):292-0930

《資材に関する問合せ》各JAファーム・営農資材センター・経済課/農業資材課:299-3311